

韓国・比丘尼の社会活動・比丘尼組織の 活動に関する調査報告 (2)

藤 能成

(龍谷大学文学部教授)

目次

1. 調査の概要
2. はじめに
3. 調査報告
4. まとめ

【キーワード】

韓国 比丘尼 社会活動 病院 寺院

1、調査の概要

調査者：藤 能成

調査期間：2017 年 8 月 20 日～26 日

調査テーマ：韓国・比丘尼の社会活動

訪問先：

大韓仏教普門宗普門寺（比丘尼宗団）

曹溪宗社会福祉財団（資料収集）

東国大学校（資料収集）

全国比丘尼会館法龍寺にて、ヘソン（海性）比丘尼

ソウル大学院仏教法堂・ウンジン比丘尼

ソウル・アサン病院仏教法堂・チホン比丘尼

2、はじめに

韓国の比丘尼の社会活動と組織の社会活動に関する第 2 回調査として、比丘尼宗団である普門宗普門寺と社会活動をする 3 名の比丘尼を訪問し、聞き取り調査を行った。比丘尼のうち一人は、社会福祉法人の運営、後の二人は、病院に設置されている仏教法堂の住持である。現在、全国の少なくとも 36 の病院に仏教法堂がある。韓国の三大宗教は、仏教、プロテスタント、カトリックである。今回訪問した病院には、プロテスタント、カトリックの教会も設置されていた。

3、調査報告

（1）大韓仏教普門宗普門寺（ソウル特別市城北区普門洞普門街 168 番地）

大韓仏教普門宗普門寺は韓国唯一の比丘尼宗団である。普門宗は、亘坦師によって 1972 年に韓国唯一の比丘尼宗団として発足した。普門宗初代宗正・亘坦比丘尼が普門寺の伽藍を整え、その後、普門宗初代総務院長・恩栄比丘尼（1910～1980）が 30 余年に亘り住職を勤め、大規模建築整備を主導した。現在インテ比丘尼が住職である。

普門寺は、1115 年曇真国師により創建されたと言われる。1692 年にミョチョム師が大雄殿を重建した。1862 年に法聰師がマンセ楼を新築した。古くから「タブコル（搭の村）僧坊」と呼ばれてきた。

普門宗は、マハーパジャパティを宗祖として崇め、新羅時代の法流比丘尼を中興の祖としている。普門宗は、釈迦仏の根本救済理念と観世音菩薩の救済思想に依拠した福祉社会を建設することを理想としている。本尊は釈迦仏・観世音菩薩であり、根本経典は『観音経』であるが、『華嚴経』・『法華経』も重要視している。

付属施設として子どもの家と、幼稚園を運営し、それぞれ比丘尼が院長をしている。現在、普門寺には比丘尼 40～50 名が居住している。末寺は 40～50 ケ寺である。僧侶は全体で 200～300 名に上る。

1968 年、普門宗比丘尼は曹溪宗比丘尼と共に憂曇鉢華会を組織し、それが後に全国比丘尼会へと発展した。憂曇鉢華会の初代会長は、普門宗比丘尼が勤めた。

（２）社会福祉法人 蓮華院、蓮華職業再活院

院長 ヘソン比丘尼

【ヘソン比丘尼の談話】

蓮華職業再活院は、カンリン寺にあった施設を活性化させるために独立させたものである。聴覚障がい者、自閉症者を主な対象とする通所施設である。当法人では、障がい者福祉増進事業、障がい者家庭機能補完事業、障がい者医療福祉支援事業、障がい者文化福祉事業、老人および児童福祉事業、障がい者職業創出事業を行っている。同じ建物の中に、寺院を併設している。

自閉症者には、知能が 2～3 歳程度しかない人がいるので、簡単な作業をさせている。蓮華職業再活院では、通所者に仕事をした代価を与えている。

ヘソン（海性）比丘尼が福祉事業に着手した動機については、彼女が手話を習った際に、聴覚障害者の存在に出会い、彼らが家族との意思疎通やあらゆる人との意思疎通に困難があり、苦しんでいることを知り、そのような人達が、仏教を知りたいと思っているのに、仏教に触れることができずにいるのを、口惜しく思ったのに始まる。仏教の教理を伝えたいという思いである。ヘソン比丘尼が手話を習った時には、仏教の単語が 100 個の宗教単語中 3 個ほどしかなかった。だから指話で伝えていた。そこで仏教用語の手話を作り、手話集も作った。最初は仏教の教理だけを伝えたいと思ったのだが、彼らは、思春期を過ぎても、勉強をあまりしていない。それで、そのような人達の職業訓練などを支援し、また、そのような人々と家族の意思疎通を支援したいと思うようになった。社会奉仕をするのに比丘、比丘尼の区別は関係がない。

ヘソン比丘尼は、病院仏教法堂の運営もしている。仏教法堂では、ホスピス患者達への相談、祈祷などを行っている。

（３）ソウル大学病院仏教法堂：ウンジン比丘尼

【ウンジン比丘尼の談話】

ソウル大学病院仏教法堂は 1985 年に病院の建物の一室に設立された。設立の経緯は、仏教徒の職員達が集まって、仏教信者であった病院長に要請し、設置が許可されることになった。それまでは部屋を借りて法要を行っていたが、ソウル大学病院に仏教法堂があれば便利だとの思いから、正式の法堂が作られることになった。法堂は、病院に来る患者達のための施設として作られた。ただし利用者は、患者よりも患者の保護者が多い。患者の場合は、手術が終わって退院する頃にお参りに来ることが多い。看護師、医師、患者、患者保護者、新規患者のパートに分かれて、活用されている。

ウンジン比丘尼は、1988 年から住持をしており、月曜日から金曜日まで、午前 9 時から

午後 6 時まで毎日法堂に出勤している。病院の方針として、僧侶は病室訪問を自制してほしいと言われている。でも出て来られない人は、僧侶に依頼があれば、訪ねていく。患者からの依頼によって、相談に乗ったり、祈祷を行ったりする。大きな法要を行う時は、病院講堂を借りて行う。ソウル大学病院には、キリスト教、天主教の教会もあり、キリスト教の教会は独立した建物を有している。

韓国比丘尼福祉会は、2016 年に結成された。福祉関係に従事する比丘尼 50 余名が集まり、互いの連絡を取り合うようになった。2017 年に、比丘尼福祉会として比丘尼の福祉を支援する仕組みも創設された。

（４）ソウル・アサン病院仏教法堂：チホン比丘尼

【チホン比丘尼の談話】

ダウム・カフェにソウル・アサン病院仏教法堂のホームページがある。法堂は 1989 年に創設され、92 年からチホン比丘尼が住持を勤めている。チホン比丘尼は、中央僧伽大学校社会福祉学科出身であり、卒業してからすぐに法堂に入った。実践修行のためである。

仏教法堂は、最初、西館地下の狭いところにあったが、2002 年に東館 6 階に移り、その際、仏教、プロテスタント、カトリックの三宗教が共に部屋を与えられた。2009 年に西館に移動した。三宗教と病院とで、連絡会を持っている。

チホン比丘尼は、毎日、11 時から 1 時間祈祷を行っている。大変多くの人が訪問してくる。曜日毎に奉仕をするボランティアがいる。毎日午前 5 時から、ボランティアの人が担当して、祈祷を行っている。

毎週火曜日には、仏光寺からボランティアが来て病室を周り、法堂週報を配布する。仏教徒でない人にも配る、相手が受け取らなければ渡さない。（病院に入院する時、自身の宗教について書く欄がある。それを知らせてくれるので、病室訪問の折には参考にする。）

利用者数は、一日 30 名から 50 名、11 時の祈祷の時には、手術の前に来られる人が多い。患者に対しては病気快癒祈祷を行う。法堂は、患者と保護者、職員の仏教徒が利用する。仏様に祈祷することが韓国の仏教の特長であり、地藏菩薩、観世音菩薩の斉日、釈迦生誕日には、それぞれ祈祷を行う。

僧侶の病室訪問は、要請があった場合にのみ行う。僧侶が患者を訪問する際、家族とも相談して合意の上で、訪問する。家族と本人との宗教が異なる場合があるからである。

患者の保護者は、多くの決断をしなければならないが、その際に相談に来られる。患者自身の意思が大切だと思われる。患者は鋭敏になっているので、そのことを保護者に言って聞かせる。医療事故が起こった際も、患者の家族が来て、相談に乗る。

韓国仏教は、生まれては僧侶を訪ね、病気になっては僧侶を訪ね、亡くなっても僧侶を訪ねる。

4、まとめ

日本では、最近、ビハーラ僧や臨床宗教師の活動によって、僧侶が病院を訪問することへの抵抗感が弱まりつつあるが、日本仏教は葬儀との関わりが深いので、僧侶が病院を訪ねることが嫌われることも多々ある。これに対し韓国仏教は、葬儀との関わりが日本ほど深くないためか、僧侶が病院にいることに違和感がない。韓国の大きな病院には、葬儀場が併設されていることも多い。日本との違いを感じない点である。また、病院に設置されている仏教法堂は、病氣快癒祈禱を目的とする利用者が多いようである。

韓国の比丘尼達は、その女性性を生かして、信徒に対するきめ細かなお世話を行っている。そのことは、比丘尼が運営する寺院を訪ねるとよく分かる。僧侶と信徒とのつながりは、仏教儀式を通してだけでなく、個人的な対話を通して築かれているように思われる。

参考文献

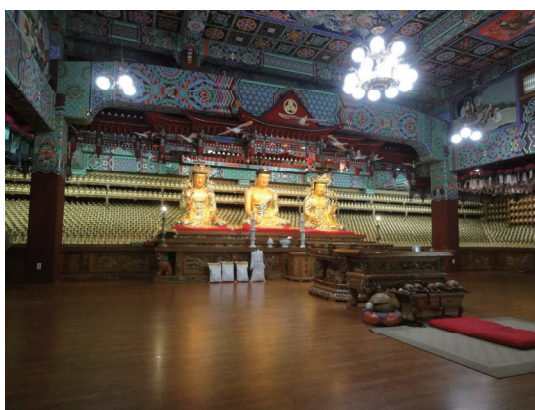
藤能成 「韓国・比丘尼の社会活動・比丘尼組織の活動に関する調査報告」
龍谷大学アジア仏教文化研究センター ワーキングペーパー
No.16-06 (2017 年 3 月 31 日)



普門寺の本尊・釈迦如来



普門寺山門



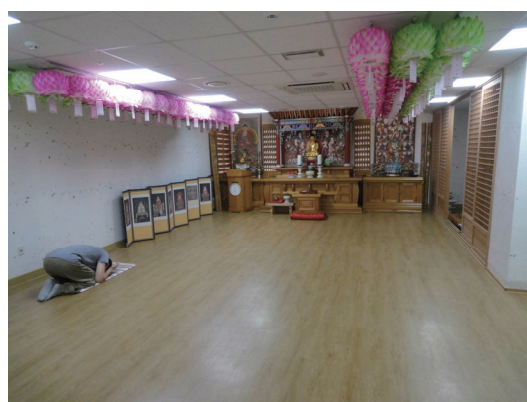
普門寺万仏堂



普門寺万仏堂



全国比丘尼会館



ソウル大学病院仏教法堂



ウンジン比丘尼



ソウル大学病院の教会（プロテスタント）



ソウルアサン病院仏教法堂入口



ソウルアサン病院仏教法堂



ソウルアサン病院仏教法堂



チホン比丘尼